

年春風路、落花送馬蹄、

明治四十三年十月十日第五高等學校  
開校第二十回記念式をこほきて

松浦校長閣下に奉る

元本校助教授

園

哲

雄

あはれ此の世は

ことほげば

事を榮ゆる

わが國は

神の國なり

言靈の

さきはふ國ぞ

あはれ此の

まなび處は

明らかに

治まる御代の

二十

三年の今日に

立ち初めて

早二十年に

なりけりな

此處より出でし

千萬の

いみじき人の

逸早き

手わざによりて

國の名を

臺灣島の

新高の

山は物かは

ゆふつけの

どりの林も

悉く

服従ひ附きぬ

然れば彼の

まかくしくも

あち驚を

うち罰めてし

戦の

中に聖の

言ひけらく

わが兵の

強きには

教官の

教へつる

事よきにより

つよきよこ

言ひしを事の

實なる

いふもながく

をこなれど

やつがれすらも

十あまり

四年そこそに

つとめてし

をりにふれては

拙くも

文苑

阿蘇の峯より

いや高き

君が御蔭に

立初めし

まなび處の

榮わゆく

その本つ日を

ことほぎて

本に報いん

真心の

赤きはやがて

日の本の

ひかりともなり

大君の

御稜威みらいづや千代に

輝かん

どこそ歌ひて

祝ひしか

其れゆ果して

二十年はたまたまと

早なりにけり

今よりは

學ぶ人々

益々ますますに

學べるわざを

眞帆にあげ

丸き地球を

押し廻り

丸き日の旗

立て廻す

可きをまつ浦の

君はしも

松の緑の

千代かけて

實けに浦安うらやすの

國くにどころ

なし奉り

給ひてめ

### 祝

### 歌

教授 本田 弘

音楽を奏つとばかり聞ゆなり軒の玉水今日を祝ひて  
そのかみを祝ひて歌ふ今日毎に聲うち添ふる龍田山風  
學び舎の松の梢をいや高みひき植ゑし人を忍ぶ今日哉

一、三、丙 南 正 樹